

H27

〔 自己評価結果 〕

1 特徴

I	福祉サービスの基本方針と組織	<p>法人の理念・基本指針・保育方針・保育目標は、ホームページ並びに保護者や地域へ配布の〔入園のしおり〕に明文化されている。また、保育目標は玄関にも掲示されている。玄関には各関係機関からのポスターの他、保育園の一日の様子や行事の様子を園玄関に大型テレビを設置して流し、情報提供に努めると同時に地域の子育て拠点としていつでも相談を受け付けています。</p> <p>園長は、初代から引き継いだ保育理念を遵守し、県の保育連盟、所長研修等にも積極的に参加し、園のリーダーとして保育の向上に努める他、地域の保育団体、十和田保育研究会リーダーとして地域の保育の向上にも貢献している。また、市の行事への参加（5回）や老健施設のお年寄りとの交流、中高生、短大生等の受け入れ教育・育成等を通して地域福祉への貢献を行っています。</p>
II	組織の運営管理	<p>県からの〔保育所事務ハンドブック〕に加え、園のチェックリストや自己評価票が作成され、職員会議や朝の職員ミーティングを通して、全職員の共通理解の基、適切な運営がされている。</p> <p>職員からの提案は園長、副園長、主任が把握し、参考にして必要に応じた対応・改善をしている。</p> <p>研修は個人のデータを作成し、バランス良い研修の機会の提供を行っている。休暇は出来るだけ消化できるように配慮している。H27（平均取得率16日 産休取得者1名）</p> <p>保育実習・育児支援・近隣への配慮・職場体験学習・子育て相談・虐待防止・保幼小連携などの各取り組みも積極的に行われている。</p>
III	適切なサービスの実施	<p>入園時、毎年度初頭に配布している園の情報提供に加え、年度当初に行われる個別面談、年2回の保育参観日、保護者会を通して利用者からの意見や要望に耳を傾け、話し合いを通して、理解と改善に努めている。</p> <p>個人情報やプライバシーの守秘義務、苦情処理体制が整っている。延長保育・アレルギー除去食など、ニーズに応えるべく様々な対応を行っている。過去において障害児を受け入れた実績があるが、園舎の設備等の問題、また、園舎の面積に余裕が無い為に受け入れは困難と判断される。</p> <p>一人、一人の子どもの発達状況・保育目標・生活状況に合った保育を行う為に、関係書類をはじめ、職員間の連絡を良く取り合い日々の保育に当たっている。</p>

<p>IV</p>	<p>子どもの発達援助</p> <p>子どもの発達援助の基本 健康管理・食事 保育環境 保育内容</p>	<p>基本方針に基づいた「保育計画」が作成され、「月指導計画評価」によって、月ごとに職員がチェックを行い、翌月へ反映している。また、職員会議で全職員にも周知するようにしている。</p> <p>内科検診・歯科検診の結果については連絡ノートで家庭へ連絡をし、園では、児童票及び健康管理台帳に記載し管理している。</p> <p>「感染症予防マニュアル」に即した予防計画が整備され、日々の出欠や羅病状況については玄関に掲示され、保護者への周知も図られている。</p> <p>「給食年間計画」を作成し、食事を楽しむ工夫の他に、食物の栽培体験の為に畑栽培を食育に取り入れている。季節感を取り入れ、園児が栽培したものを調理するなど、保育に連結して進められている。</p> <p>保育士は定期的に「生活の場にふさわしい環境」及び「子どもへの理解と受容」を心がけ、子ども達が心地よく過ごす事が出来る環境作りと整備に努力している。</p> <p>基本的な生活習慣の指導を念頭に置きながらも、園児一人、一人に即した個別計画も立てられている。身近な社会との関わり・自主性を持たせた活動・子どもの人権への配慮も行われている。</p>
<p>V</p>	<p>子育て支援</p> <p>入所児童の保護者の育児支援 地域の子育て支援</p>	<p>園だよりやクラスだよりに加えて掲示物に子育て相談を常時受ける事や「関係機関一覧表等」が示され、保護者の相談などに対応する体制が整えられている。また、気になる子どもの行動等が見られた場合は、親御さんとよく話し合いを持つと同時に、市の保健師さんに相談する等、子どもにとって、早い対応ができる様に心がけている。</p> <p>家庭と園との日常的な情報交換は主に連絡帳で行われるが、登降園時に保護者が希望すればいつでもお話を聞く体制をとっている。また、登降園時に保護者がクラスの中に入って、自由に見学したり、子ども達の様子を見る事が出来る様に配慮している。</p>
<p>VI</p>	<p>安全・事故防止</p>	<p>「安全管理マニュアル」「保育所運営管理の手引き」に基づき、調理室の衛生管理・食中毒発生時の対応・事故防止対策・災害時避難訓練・不審者侵入等への対策等が実施されている。園独自の「安全管理表」や避難訓練実施記録簿も整備・記録がなされている。</p>

2. 課題

園舎が改築された初年度は、保育活動を行う上でどんな危険があるのか模索しながらの保育活動であったが、2年目は職員会議などで、情報を共有し、活動ごとに気を付ける点などが明らかにされる事で、比較的安心して保育を行うことが出来ていた。また、改築時には揃えられなかったカーテン・テレビ等、日常の活動に必要な物はほぼ揃える事ができた事は運営上大変良かったと思います。27年度は赤ちゃんの入園希望が多くあったが、受け入れ側の問題として保育士の確保の難しさを実感しました。産休・育児休暇取得者がいる事を踏まえ、早くから募集を出していたにも関わらず問い合わせすらない状態に危機感を感じ、苦肉の策としてシルバーの保育士資格者をお願いしてやっと、利用者の希望に答える事が出来た状態。しかし、年々、職員の中に60代が多くなってきている現状から、安定した運営を続けるためには、まず、職員の確保が急務であり、そして、保育士の質の確保が大きな課題になると思います。当園に限らず、保育士不足の現象は全国的に共通した問題である中、今後は、園としていかに優秀な保育士を育てられるかが大きな目標になると考えています。